

正会員限定

2025年度 研究開発人材育成プログラム5日間コースご案内

■はじめに

企業の技術開発力強化は常に重要課題として挙げられていますが、その中でも研究者の人材育成のニーズは高く、過去の日経産業新聞の調査によれば、62%が研究者活性化の工夫として、「外部との人材交流」を挙げています。

建築研究開発コンソーシアムでは、「研究者の人材育成の場が欲しい」との会員様のニーズにお応えし、若手技術者交流会の活動を行い、大変に好評を得ておりますが、さらに会員様に共通する課題である「将来を担う人材の育成」に関し、研究への取り組み姿勢、研究開発マネジメント、先輩の経験・ノウハウ等の伝承による人材育成の場を提供するべく、「研究開発人材育成プログラム」を2013年に立ち上げました。

研修目的として異業種交流と人脈形成、そして座学では研究開発の体験談とマネジメントの知識獲得を掲げ、毎年実施してまいりましたが、今までに総合建設業、ハウスメーカー、設備メーカー、建材メーカー、公的機関など様々な会員様にご参加いただき、2024年度までの受講者の累計数は322名となりました。

講義ではMOT(技術経営)、マーケティング、政策動向などの「特別講義」と、企業の研究・技術開発に携わり、豊富な経験と知識を有されているOBの方々の「私の研究開発履歴書」を実施。また、他社の研究者・技術者とともに行うグループワークでは、新しい発見や気づきが得られるとともに人脈交流も生まれ、受講者から大変好評を得ています。

2025年度も今年度と同内容にて実施いたしますので、本プログラムの趣旨に適った人材のご参加をお取り計らいいただき、よろしくお願い申し上げます。

■2025年度 開催概要

【日程】 全て金曜日／時間は13:00 ～ 17:30（1日目・5日目は、懇親会を予定しています）

		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
第1回	2025年	5月30日	6月13日	6月27日	7月11日	8月1日
第2回	2025年	9月5日	9月19日	10月3日	10月17日	10月31日

【形式】 会場開催(会場：東京 晴海トリトンスクエア Z棟 4階 BHCJ講演室)

<https://harumi-triton.jp/access/>

【目的】

1) 研究開発チームマネージャーへのステップアップに向けた知識の習得

- 研究開発の進め方の習得:市場(マーケット)の把握、研究課題の創出、ロードマップ策定
- 社内外ネットワークの構築、組織運営と人材育成の方法論の習得
- アイデア創出の方法、グループワークの進め方の習得

2) 様々な業種の研修参加者との交流と、人脈形成の実践・実現

- 参加者を5人程度のチームに分け、毎回異なる参加者とグループワークを実施

【対象】 正会員

- 正会員企業所属の研究開発に従事する社員、または技術関連業務に携わる社員
- マネージャー、またはマネージャークラスへのステップアップを目指されている方
- 実施期間中を通して全てのプログラムに参加可能な方（やむを得ない場合は代理出席も可）

【定員】 第1回15名、第2回15名(計30名)

- 多くの会員企業に機会を広げるため、原則1法人につき1名の参加とします。
- ただし、定員に対し応募者数の余裕がある場合、第1・2回に各1名(2名/年度)の参加を可とします。
- 希望する場合は、各回の申請書をそれぞれ提出ください。

【参加費】 無料

【申込方法】 別途「参加申請書」を、連絡担当者様からEメールにてお送りください。

締切：2025年4月25日(金) ※定員になり次第、締切ります。

宛先：人材育成プログラム担当 恩田 宛 Eメール：human@conso.jp

TEL：03-6219-7127

※詳細は建築研究開発コンソーシアムホームページをご参照ください。

※連絡担当者をご不明の際は、人材育成プログラム担当までお問合せ願います。

■プログラム

*プログラムの内容は第1回、第2回とも同様になります。

*下記の研修プログラムは2025年3月11日時点の<案>になります。
変更する場合がありますので、ご了承願います。

1日目 (金)	13:00-14:10	14:20-15:20	15:25-17:00	17:00-17:30
	■開会挨拶 インキュベーション委員長 ■プログラム説明 ■受講者自己紹介	■私の研究開発履歴書 「研究開発 ～部分から全体へ～」 藤井 俊二 氏 [Built Environment Research代表・ 大成建設OB]	■グループワーク ・講師課題説明 ・進め方説明 インキュベーション委員 ■課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互質疑応答) ■講師講評 (同左) 17:40-18:40 ■懇親会 (情報交換)
2日目 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-17:00	17:00-17:30
	■特別講義 「観察から洞察へ」 ～イノベーションを 創出するために～ 富田 晃夫 氏 [ミサワホーム 総合研究所]	■私の研究開発履歴書 「住宅における 省エネ開発を通して」 栗原 潤一 氏 [ミサワホーム]	■グループワーク ・講師課題説明 ■課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互質疑応答) ■講師講評 (同左)
3日目 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-17:00	17:00-17:30
	■特別講義 「技術マネジメント MOTの紹介」 出川 通 氏 [テクノ・ インテグレーション代表]	■私の研究開発履歴書 「耐震・制振に関わる プチ開発例」 飯田 毅 氏 [飯田技術士事務所・住 友金属工業OB・大阪産 業大学元教授]	■グループワーク ・講師課題説明 ■課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互質疑応答) ■講師講評 (同左)
4日目 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-17:00	17:00-17:30
	■特別講義 「住宅分野の政策課題 と対応の方向性」 恵崎 孝之 氏 [国土交通省 住宅局 住宅活用調整官]	■私の研究開発履歴書 「建材開発・ 市場開発・基準開発」 安藤 達夫 氏 [安藤F&M代表・ 三菱ケミカルOB]	■グループワーク ・講師課題説明 ■課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互質疑応答) ■講師講評 (同左)
5日目 (金)	13:00-15:00	15:05-16:50		17:00-18:00
	■特別講義 「環境と建築」 村上 周三 氏 [東京大学名誉教授・ CBRD特別顧問]	■受講者研修レポート発表 ■プログラム成果講評 インキュベーション委員会 人材育成プログラム小委員会主査		■懇親会 (相互理解/情報交換)

■研修カリキュラム詳細 ※2025年度開催予定内容（講義内容は変更になる場合があります）

- ・研修は、講義とグループワーク、研修レポートで構成されます。
- ・講義は、企業の研究開発に携わってきたベテラン研究者・技術者による「私の研究開発履歴書」と、特別講義として政策動向・MOT・マーケティング関連の各講義、そして建築研究開発コンソーシアム村上特別顧問による特別講義を予定しています。
- ・各講義の内容・担当講師、グループワークおよび研修レポートの内容は以下の通りです。

「私の研究開発履歴書」講師

講師／藤井 俊二 氏〔Built Environment Research代表、大成建設株式会社OB〕



講義内容／研究開発～部分から全体へ～

Part1 どんな研究開発をやってきたか

1. 研究開発の実施
2. 研究開発マネジメント
3. 社会の課題への取り組み

Part2 マネージャーとしてき知っておきたいこと

1. 研究テーマの創出
2. 人脈形成
3. ビジョンの構築

講師略歴／1974年東京大学工学系大学院修了、大成建設(株)入社。1982～84年にカリフォルニア大学バークレー校留学。2000年大成建設(株)技術研究所 建築研究部長、2004年に同社技術センター 副技術センター長、2012～2014年技術センター技師長。同社退社後2015年にBuilt Environment Research社を設立。

工学博士、1級建築士、技術士(応用理学部門)、コンクリート主任技師、建築研究開発コンソーシアム学会会員。建築研究開発コンソーシアムのアイデアコンペで第4回最優秀賞、第8回審査員特別賞、第10回10周年記念賞受賞、第15回優秀賞を受賞。平成29年度建築研究開発コンソーシアム功労賞受賞。

講師／栗原 潤一 氏〔ミサワホーム株式会社 技術担当顧問〕



講義内容／研究開発～商品化～普及

1. 研究開発経緯

- (1) 省エネルギー・太陽エネルギー利用
- (2) 自然エネルギー利用
- (3) 太陽光発電利用の開発

2. 開発から商品化

- (1) ゼロエネルギー住宅(ZEH)
- (2) 微気候デザイン
- (3) 商品化

3. 外部団体への参画

講師略歴／1977年東海大学大学院工学研究科(建築学専攻)修了、1978年ミサワホーム(株)入社。同年(株)ミサワホーム総合研究所出向。主に、住宅の省エネルギー性、自然エネルギー利用の研究に従事。1993年環境エネルギー研究室室長、1996年「屋根一体型太陽光発電システム」、1998年「ゼロ・エネルギー住宅」開発。2004年博士号取得。2006年(株)ミサワホーム総合研究所取締役、2013年同取締役副所長、現在ミサワホーム(株)技術担当顧問。環境共生住宅推進協議会運営委員長。一級建築士。(公)空気調和・衛生工学会 SHASE技術フェロー。

講師／飯田 毅 氏〔飯田技術士事務所(住友金属工業株式会社OB、元大阪産業大学教授)〕



講義内容／耐震・制振に関わるプチ開発例

1. 研究・開発環境
2. 開発例等の小話
3. 研究開発を進める上で得た教訓1～7
4. 技術開発面で得た小事

(アイデアの出し方、管理職として知っておきたい話、チームマネージャーとしての10か条)

講師略歴／1972年に京都大学大学院修了、住友金属工業株式会社入社。1996年に同社建設技術部長。2000年に同社取締役。2002年大阪産業大学工学部教授。2014年からNPO 関西インフラ維持管理・大学コンソーシアム副理事長、飯田技術士事務所所長。工学博士、技術士(建設部門)

講師／安藤 達夫 氏〔安藤F&M代表、三菱ケミカル(株)OB〕



講義内容／建材開発・市場開発・基準開発

1. 自己紹介(研究開発履歴)
2. 製造業での研究開発
3. 私の建築材料研究開発履歴:(1)金属/樹脂積層複材料(略称:ACM) (2)アルミナ繊維(AF) (3)建築分野向け炭素繊維(CF) (4)基準開発と成果発信
4. 研究開発経験からの教訓

講師略歴／1973年早稲田大学理工学部建築学科卒、1976年東京大学大学院工学研究科修士課程修了。1976年三菱化成工業(株)入社(商品研究所)。1990年米国三菱化学ヴァージニア事務所、1996年三菱化学(株) 複合材事業部技術グループ部長。2001年三菱化学産資(株) 商品研究所長、2004年海外貿易グループGM、2007年同社事業企画部部長。2008年三菱樹脂(株)理事、参与。2012年高機能成形材・部品関連分野事業企画部。2015年同社定年退職、東京大学学術支援職員/客員研究員。2021年AF&M(安藤F&M)設立。

1級建築士、危険物取扱者、第一種衛生管理者、通訳案内業(英語)、総合旅行業務取扱管理者他。2016年建築研究開発コンソーシアム功労賞受賞。

「特別講義」 講師

講師／村上 周三 氏 [東京大学名誉教授、建築研究開発コンソーシアム特別顧問]



講義内容／建築と環境

- 1 環境と文明
- 2 バナキュラー建築
- 3 住宅と健康

講師略歴／1967年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 修士課程修了。1985年東京大学生産研究所教授。1999年デンマーク工科大学(DTU)客員教授。2001年慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授、2008年独立行政法人 建築研究所(旧建設省建築研究所)理事長、2003年から一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構(IBEC)理事長。

工学博士(東京大学)。日本建築学会会長、国土交通省中央建築士審査会会長、国土交通省社会資本整備審議会環境部会部会長、建築・住宅国際機構会長、生産技術研究所顧問研究員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別研究教授を歴任。2014年日本建築学会賞大賞受賞。研究分野は、計算流体力学、人体周辺環境、建築・都市環境工学、地球環境工学、サステナブル建築。2023年春の叙勲にて瑞宝重光章受章。2008年6月～2019年まで、建築研究開発コンソーシアム会長。2019年6月から建築研究開発コンソーシアム特別顧問。

講師／富田 晃夫 氏 [株式会社ミサワホーム総合研究所 フューチャーデザインセンター市場企画室 室長]



講義内容／観察から洞察へ～イノベーションを創出するために

- ・マーケティングとは何か
- ・共感・洞察
- ・アイデア創出
- ・事例紹介
- ・伝えることの重要性

講師略歴／1990年 東洋大学卒 同年ミサワホーム(株)入社。2015年 (株)ミサワホーム総合研究所 フューチャーデザインセンター市場企画室 室長、2020年プライムライフテクノロジーズ(株)技術企画推進部 商品企画課 課長 都立大学及び立命館大学 客員研究員 東京都立大学システムデザイン研究科博士後期課程 在籍中

- ・委員及びアドバイザー(国事業プロジェクト等):石川県SH、PV研究会委員、北海道長沼町まちづくりアドバイザー、住教育推進機構運営委員、国交省まちづくりプロデューサー 等
- ・受賞・著書:「ホーム commons 設計」開発・キッズデザイン賞受賞、「minilabo」コンセプト策定、商品化(ハイブリッドEdu)・テレワーク推進賞受賞。書籍「未来の選び方 Heart and Earth」監修、発刊

講師／出川 通 氏 [株式会社テクノ・インテグレーション]



©Techno Integration

講義内容／

「最新の日本の実践MOT紹介」～新規事業を成功させるイノベーションの基礎と実践と事例紹介～

はじめに:企業における環境変化をどうとらえるか？

1. ライフサイクル(PLC)とMOT:技術をどのように生かして守るか
2. 見えない市場(顧客価値)をどうつかむか
3. ロードマップとその活用を考える
4. オープン・イノベーション時代の発想・意識の転換
5. 人材発掘と起業家精神、ライフデザイン

まとめ:今後の実践MOTの活用と展望

講師略歴／1974年東北大学大学院修士課程修了東北大学大学院修士課程終了(金属材料研究所、材料加工学専攻)。三井造船(株)入社。1989-1991年ブリテッシュコロンビア大学(カナダ) 客員研究員。2004年に(株)テクノ・インテグレーション設立、代表取締役就任。早稲田大学客員教授併任。2005年東北大学客員教授併任。その後島根大学、大分大学、香川大学客員教授他を併任。2007年以降、経産省、文科省、農水省各種委員およびJST、NEDO、産総研などの事業性評価委員を歴任。工学博士。

主な出版物に、「決定版 イノベーションを実現する 実践MOT」「マンガでわかる実践MOT! :イノベーションを仮想体験するビジネスストーリー」「増補改訂 図解 研究開発テーマの価値評価」(言視舎、2021刊)ほか多数。

講師／恵崎 孝之 氏 [国土交通省 住宅局住宅企画官付 住宅活用調整官]



講義内容／住宅分野の政策課題と対応の方向性

1. 地震の復旧・復興
2. 住宅政策の変遷
3. 住宅ストック・住宅市場の動向
4. 社会情勢の変化
5. 住宅政策の現状と今後の方向性
 - 1)住宅・建築物の省エネ化、カーボンニュートラル
 - 2)空き家対策、住宅団地再生
 - 3)住宅セーフティネット強化
 - 4)マンション長寿命化・再生円滑化
 - 5)住宅税制
6. 次期の住生活基本計画に向けて

講師略歴／2005年 東京工業大学大学院社会理工学研究科修了。2005年 国土交通省入省。住宅・建築・都市・国際部局のほか、北陸地方整備局、消防庁、消費者庁にて勤務。2022年 住宅局建築指導課企画専門官、2023年 住宅局住環境整備室企画専門官、2024年から現職。

グループワーク

- ・ グループワークの目的は、アイデア創出の方法とグループワークの進め方の習得です。
- ・ 各回の「私の研究開発履歴書」講義の後、講師が講義内容に関連したテーマを提示、そのテーマについて、グループで議論します。
- ・ 「私の研究開発履歴書」講義の後、グループワークの進め方を説明します。
- ・ グループワーク時間の最後に、毎回グループ毎に議論の内容を発表し、他のグループとの質疑応答および、講師やインキュベーション委員会委員からの助言・コメント、意見交換を行ないます。

受講者レポート発表会

- ・ 最終日に受講者全員の受講者研修レポート発表会を行ないます。
- ・ 5日間の研修受講による、研究開発マネジメントの気づき、そしてチームマネージャーとしてやるべきことや意気込みについて発表します。
- ・ 毎回の講義・グループワークでの気づきをもとに、市場の把握、研究課題の創出、技術開発ロードマップ、社内外ネットワーク、組織運営と人材育成を中心として、チームマネージャーとしてやるべきことや意気込みを各自レポートに纏め、発表会で発表していただきます。

■2024年度の実績

● 受講者数・構成

業種区分	第1回	第2回
総合建設業	5名	5名
ハウスメーカー	4名	3名
建材・設備メーカー	3名	1名
公的機関	1名	1名
合計	15名	10名

受講者の声(アンケート結果/参加者のニーズとの合致について)

受講者からのアンケート結果より、受講者から高い評価を受けています。

	あった	どちらでもない	あっていなかった	合計
第1回	13名	2名	0名	15名
第2回	10名	0名	0名	10名

■2024年度 受講者の声

◇グループワークについて

- ・ 毎回テーマに応じた活発な意見交換ができ、有意義だった。
- ・ 各グループでユニークな視点や発想があることも興味深かった。
- ・ 4～5人のグループで実施していただけだったので、各自が各々の考えや経験を話す機会も多く、それなりに打ち解けた雰囲気が進めることができた。
- ・ 多種多様な立場から対面で様々な意見交換ができたことは大変貴重な機会であった。
- ・ 自分の中では常識でも、他人にとっては非常識になりうる事象や考え方が普通に沢山あるということ。それは、近い世代で同業の研究者という立場でも普通であること。同様に弊社の常識は他社では非常識となりうることも普通であることに、改めて気づけることができた。
- ・ 現在の状況に近いメンバーが多く、抱えている課題や悩みも共通していて、活発な議論ができた。
- ・ グループワークを通して、意外と普段の業務や生活の中で、異業種との交流を図れているということに気づけた。今後は意識して目を向けていきたい。
- ・ ゴール(回答)を求めずに議論をすることも大事だと感じた。そのためには、みんなが話をしやすい雰囲気づくりが重要。
- ・ 司会を担当したが、メンバーの皆さんが前向きで、積極的に意見を出そうという姿勢があり、非常に助けられた。



◇「私の研究開発履歴書」について

- 製品化できたものとできなかったものについて、その理由も含めて解説いただき、製品化に至らなかったとしても、その技術の積み重ねが次の商品へつなげると再認識した。
- 与えられたテーマ、顧客トラブル、自主テーマなど異なる開発背景において、何を考え、どう対処していったかを聞くことができ大変参考になった。
- 業界や分野によって、失敗への許容度や失敗の定義は異なるかもしれないが、失敗はつきもの、というお話にとっても勇気づけられた。普段は聞くことのできない上市後のトラブル事例も詳細に説明いただき、勉強になった。
- 日々の生活の気づきから開発・実用化までの具体的な事例紹介から、研究開発の進め方や課題創出方法を習得できた。
- 失敗を多くしてもそれは良い勉強になっており、また良い研究が出来た際にはそれを周囲に伝達する必要があるということに、とても納得ができた。



◇村上周三 建築研究開発コンソーシアム特別顧問による特別講義について

- 「環境と文明」では歴史、宗教、思想などを広範に学ぶことができ、「バナキュラー建築」ではサステナブル建築を考える上での重要な視点を学ぶことができた。また、「住宅と健康」は身近な関心事である健康と密接に関連するテーマであり、現在および将来に渡って実質的に役立つ有益な事柄を学ぶことができた。
- 建設・住居といった次元に先立つ文化人類学的側面や、世界各地のバナキュラー建築の紹介から、現代住宅の健康にまつわる問題に踏み込んでご教示いただき、原点から見つめ直すきっかけになると感じた。
- 研究開発の効果を測るうえで、定量化・エビデンス化の重要性に改めて認識させられた。また、生活習慣病の対策を国は推奨しているが、これに対し居住環境がそれと同等以上の影響があることを示されており、論理性の高いこの事実の認識が深まった。
- 多岐にわたるテーマであり、また各テーマについて短い時間で非常に情報量が多い内容だった。特に研究成果の社会実装におけるエビデンスの蓄積については、根気強くデータを続けることの重要性を改めて認識した。



◇「技術マネージメント(MOT)」に関する講義について

- MOTという言葉は何度も聞いたことがありましたが、体系的な説明を受けたのは初めてで、とても興味深く聞くことができた。
- 開発と販売、イノベーションの流れ、関係性、考え方について、今まであまり考えたこともなく、今後は今回ご教示いただいた考え方も取り入れながら業務に取り組みたいと思った。
- イノベーションの役割を持つべき研究・開発部門と今の売上高への直接の貢献を期待する営業・運営部門の思考GAPを理解した。またイノベーションを担う部門は多数派ではなくリスクをはらんでいても革新者・初期採用者となるパートナーを見極め、共にロードマップをつくることが重要であると認識を新たにした。



◇「マーケティング(行動観察)」に関する講義について

- 技術者としてマーケティングに関する基礎知識を知ることができ、有意義であった。
- 技術的な研究開発とは少し異なる目線で、マーケティングの重要性に関して学ぶことができた。
- アイデア創出手法も研究開発に通じる大事な内容であり、大変勉強になった。
- 違う分野の方に説明する時、伝え方がいかに重要かを改めて理解できた。バックグラウンドの違う人に説明しても通じないことが多々あり苦労していた。伝えることに意識して努力していきたい。
- マーケティング的な視点からの開発がおろそかになっているため、デザインの思考を取り入れていくことの重要性を学んだ。
- マーケティングの話の中で、「社会にどう貢献できるか」という言葉が随所に出てきたのが印象的だった。単に売るためではなく、社会への貢献するのだという意識が必要だと思った。



◇住宅関連政策に関する講義について

- 能登半島地震の対応を含めた最近の社会課題などの動向をご説明いただき、研究開発のヒントがありそうだった。
- どういう統計データを見て、判断して、政策を立案されたのかが分かり、興味深かった。
- 空き家問題は新聞、ニュースでも知っていたが、客観的なデータを示して丁寧に説明頂き大変参考になった。問題の大きさが認識できた。社内で情報を横展開して共有したい。今後、研究テーマを考える上で大変参考になると思う。
- 国交省の施策は新たな研究開発テーマの検討時に非常に参考になる。
- 日ごろ聴くことがない国が行っている仕事の一端を、分かりやすい解説で聞くことができた。
- 普段はなかなか知ることが出来ない日本の住宅の問題点と課題を、よく理解することができた。



◇研修レポート発表会での各人からの成果発表について

- 本研修に参加された皆様の発表を聞き研究開発業務における自分の現在地のようなものを把握できてよかった。
- これまでのカリキュラムと同様にグループ分けをして研修レポートを発表すると思っていましたが、全員分の内容を聞き、PPTの作り方や話し方を比べることで、どうすれば内容が伝わりやすいか、勉強になった。



◇5日間(各半日)の期間・スケジュールについて

- 参加者の業務を圧迫しない行程として適当な期間であったと思う。
- 講義によっては尺が足りないものもあったため、1日あたりの時間を若干伸ばすか、1～2日追加日程があっても良いとすら思った。
- 4人の履歴書の講師は、どの方も省けない。一日に一人がベスト。
- 終日開催が繰り返されると、時間の確保もプログラムが間延びしないようになどの配慮も必要になるかと思うし、半日の中で毎回講師の方のご講義とグループワークを少しずつ経験できていたので、今回のスケジュールで良かったのではないかと思う。

◇研修全体について

- 今回の様に普段の仕事では直接関わることのない同業他社の方と交流する機会をいただき、大変感謝しております。
- 研究開発業務の各カテゴリーの中でどのように強弱をつけて日常業務に取り組むべきかのヒントがたくさんありました。この度は、非常に多くの事を学ばせていただき有り難うございました。また、ぜひ参加をさせていただきたいです。
- 同業他社の皆さんと交流を通して大いに刺激を受けることができ、大変有意義な時間になりました。



以上